岩手日報（5面）2015年（平成27年）10月3日（土曜日）

■砂防学会東北支部が設立総会　産学官が連携して土砂災害の減災などに取り組む砂防学会東北支部（支部長・井良沢道也岩手大農学部教授）の設立総会は2日、盛岡市上田の同大で開かれた。

東北6県の専門家や行政の担当者ら約30人が出席。井良沢教授は「東北でも豪雨や地震による土砂災害が多発している。多様な立場の方が結集して新たな道を切り開きたい」とあいさつした＝写真。

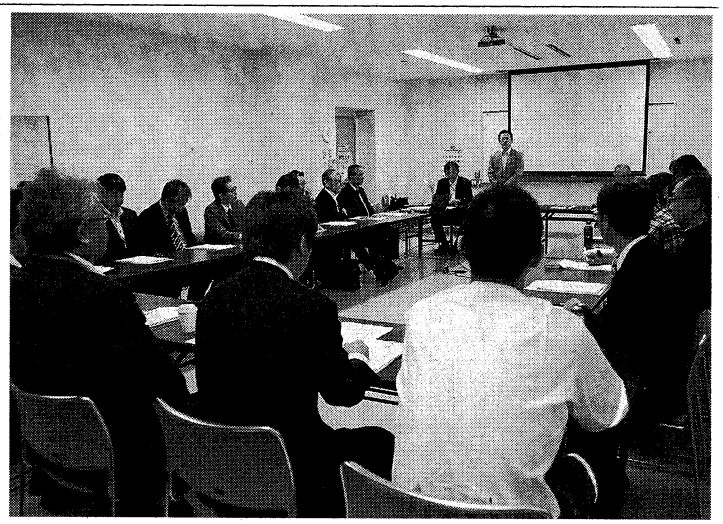
同支部の正会員は75人。災害

発生時には原因やメカニズムなどの緊急調査を行い、会員の研修会も開催する。高齢化や過疎化が進む中山間地で、防災を通した地域振興にも取り組みたい考えだ。

総会後のセミナーでは、ドローン（小型無人機）による空撮画像を活用し、砂防堰堤（えんてい）付近の地形を立体的に把握する事例を共有。時期の異なる地形データを比較して河床変動を解析できることなどが紹介され、二次災害防止や日常点検に応用できる可能性が示された。

防災・減災で産学官連携

砂防学会 東北支部設立で総会



砂防学会東北支部の設立総会

砂防学会東北支部（支部長・井良沢道也岩手大学農学部教授）の設立総会が2日、盛岡市の岩手大学で開かれた。行政機関、民間企業、大学の関係者らが参加し、基本方針や設立目的などを確認した。

同支部は、土砂災害の防災・減災や中山間地の振興に向けた活動を、産学官が連携して進めていくことを目的に立ち上げられた。東北地区でも近年、土砂災害が多発しているが、事前の対応が十分に行われていないのが現状であり、支部設立によって多様な主体が情報共有を図り、東北地方の砂防・治山に対する技術力や対応力を高めることを目指す。

会員は東北6県の行政機関、民間企業、大学などの砂防・治山関係者で構成。基本方針としては、震災復興への寄与、土砂災害へのハード・ソフト両面における対策への貢献、高齢化・過疎化が著しい中山間地の振興への寄与などを挙げており、セミナーや現場見学会、各種広報活動、土砂災害緊急対応などを主な事業内容として活動を進めていく。

2日開かれた設立総会では、支部設立までの経緯や事業計画などを確認。井良沢支部長は「さまざまな職場の会員が結集することで、新しい道が開かれる可能性がある」と呼び掛け。産学官の連携と情報共有を通じての、地域貢献を呼び掛けた。

同日はセミナーも催され、井良沢支部長が「砂防学会東北支部に期待されること」、東北地方整備局岩手河川国道事務所の重茂和志監督官が「土砂災害防止法の改正」、アジア航測㈱の落合達也氏が「盛岡近郊の砂防堰堤などにおけるドローンの活用事例の紹介」をテーマに講演したほか、UAVのデモフライトも行われた。